

観光社会資本の事例

テーマ	名作『伊豆の踊子』の舞台となった日本初の道路隧道「天城山隧道」
【施設の状況写真】	
<p>明治 37(1904)年完成し、名作「伊豆の踊子」の舞台となり、現在は、「日本の道100選」に選ばれ、「踊子歩道」として知られている。</p>	<p>四季折々の景色が堪能でき、「踊子歩道」として、一年を通じて多くの観光客が訪れる。</p>
【施設の利用写真】	
<p>行楽シーズンには、「踊子歩道」を散策し、自然のすばらしさを楽しむ観光客</p>	<p>秋の「天城路もみじまつり」では、天城トンネルの前で、踊子と記念撮影をする観光客も多い。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>天城山隧道は伊豆半島の中央部 標高 711m の天城峠にあります。石巻といって石を積み上げていく工法で施工され、4年間の工事の間に12名の尊い命が失われましたが、明治37年(1904)に開通しました。全長446m、幅4.1m、高さ4.2mと小さめですが、全国初の道路隧道として平成13年には、国の重要文化財に指定されました。天城隧道は、現在も当時の姿を今に伝え、豊かな自然とともに、天城路のシンボルとなっています。</p> <p>当時から、多くの文化人が天城路を訪れ、『伊豆の踊子』をはじめとする小説に登場したり、詩の舞台となったことにより、ゆかりの文学碑や詩碑が建てられ、行き交う人々に語りかけています。伊豆半島の主要観光スポットとして、今も尚、多くの方々が四季を通して訪れています。</p> <p>また、近年伊豆市観光協会と河津町観光協会では、天城路もみじまつりを共同開催し(提灯ウオーキイベント等)を行い、両市町の「観光資源」として利用しています。</p>	

テーマ	名作『伊豆の踊子』の舞台となった日本初の道路隧道「天城山隧道」
【社会資本の基礎データ】	
名称	天城山隧道
所在地	静岡県賀茂郡河津町梨本～伊豆市湯ヶ島
事業名	-
事業主体	静岡県
事業期間	明治34年(1901年)～明治37(1904年)
【社会資本の役割・効果】	
<p>交流促進 明治の終わり頃まで伊豆半島中央部の河津から天城湯ヶ島への道は、険しい山道を通っていましたが、天城山隧道の完成により、大正5年にはバスの運行が開始され、人・物の交流が盛んになりました。</p> <p>観光 天城隧道周辺には、ブナやカエデの木々が自然のままに生い茂っており、その風情は伊豆の踊子の世界そのものです。四季を通じて美しい所ですが、特に秋の紅葉を見に来る観光客が多く見られます。</p>	
【位置図】	
	
【関連ホームページ】 伊豆市 http://www.city.izu.shizuoka.jp/	